



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月11日

上場会社名 株式会社シャルレ 上場取引所 東
 コード番号 9885 URL <https://www.charle.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 勝哉
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 千本松 重雄 TEL 078-792-8565
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	6,443	△19.2	240	△79.2	263	△77.5	△580	ー
2022年3月期第2四半期	7,969	24.8	1,157	ー	1,167	ー	886	ー

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 △614百万円 (ー%) 2022年3月期第2四半期 888百万円 (ー%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	△36.63	ー
2022年3月期第2四半期	55.98	ー

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	20,533	18,073	88.0
2022年3月期	22,145	18,814	85.0

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 18,073百万円 2022年3月期 18,814百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	ー	0.00	ー	8.00	8.00
2023年3月期	ー	0.00	ー	ー	ー
2023年3月期（予想）	ー	ー	ー	8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,800	△17.8	78	△95.4	107	△93.8	△756	ー	△47.74

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	16,086,250株	2022年3月期	16,086,250株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	250,777株	2022年3月期	250,777株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	15,835,473株	2022年3月期2Q	15,835,683株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。詳細は添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症（以下、感染症）のまん延による影響を受けながらも、社会経済活動の正常化が進む一方で、長引く世界情勢の混乱を背景としたエネルギー資源や原材料価格の高騰によりインフレ圧力が高まっております。また世界各国による金融引き締め策が加速したことで、急速な円安の進行及び輸入コストの増加などを招き、国内経済は生活防衛意識の高まりによる消費者心理の悪化など、依然として先行きは極めて不透明な状態が継続しております。

このような環境のもと、当社グループは、当連結会計年度を初年度とする5か年の中期経営計画に取り組んでまいりました。

2つの基本戦略の1つである「シャルレビジネス事業の再生」につきましては、直受注・直発送（BtoC）モデルの導入に向けた、現ビジネスモデルの改革検討と、新たな販売プログラムの導入に向けた新ビジネスプランの詳細設計及び実行計画の検討を継続しております。ブランド・マーケティング戦略の強化では、企業ブランドの価値向上及び商品ブランドの再編に加え、フェムテック、フレイルなど各領域の商品開発に引き続き取り組んでおります。SDGsへの取り組みに関しましても、社外の有識者による従業員向けのセミナーを行うなど、社内浸透を加速させ、掲げた目標達成に向けて推進しております。

基本戦略の2つ目である「新規事業開発による新たな柱の創造」につきましては、子会社事業の強化とM&A・提携等の企業探索を引き続き行っております。海外展開についても、テストマーケティングや商品開発に取り組んでおります。

(レディースインナー等販売事業)

品目別売上高	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	増減率 (%)
衣料品類 (百万円)	4,242	4,044	△4.7
化粧品類 (百万円)	1,108	1,024	△7.5
健康食品類 (百万円)	475	454	△4.5
その他 (百万円)	849	241	△71.6
合計 (百万円)	6,676	5,765	△13.7

感染症対策の制限緩和の流れにより、徐々に訪問販売業における活動環境が改善されつつあるものの、コロナ禍前の販売活動に戻るには至っておりません。そのような中、当社ではコロナ禍以降、中止や規模縮小を余儀なくされておりましたビジネスメンバー向けのセミナー活動につきまして、感染症の対策を講じたうえで実施するなど、販売支援の強化やビジネスメンバーの新規育成の促進に取り組ましました。

商品面におきましては、衣料品類では、アウター商材や寝具類の生活関連商材などを発売しましたが、前期にアウター商材のシリーズ見直しにともなう、一部商品の値引販売の実施が売上に大きく貢献していたことから、売上高は40億44百万円（前年同四半期比4.7%減）となりました。

化粧品類では、前期にヘアケア商材の全面リニューアルを実施し、発売記念商品が売上に大きく貢献していたことなどから、売上高は10億24百万円（同7.5%減）となり、健康食品類は定番商品が伸びず、売上高は4億54百万円（同4.5%減）となりました。

その他では、前期に続き、子会社のシャワーヘッドの追加販売の要望があったため数量限定で販売しました。

以上の結果、売上高は57億65百万円（同13.7%減）となり、利益面につきましては、前期は、一部商品の値引販売を実施したことによる在庫ロスの低減、子会社のシャワーヘッドの発売などの要因により利益率の改善を図ることができましたが、当期は売上の減少額が大きかったことに加え、大幅な在庫ロスの低減に至らなかったことから、セグメント利益は1億82百万円（同54.6%減）となりました。

(ウルトラファインバブル技術製品等製造販売事業)

美容への作用が期待できる節水シャワーヘッドにおいては、メディアへの露出効果による認知度の向上に加え、巣ごもり需要の拡大により売上は大幅に伸長しておりましたが、需要の一巡による売上の鈍化に加え、新規参入事業者の増加により、価格競争が激化するなど、市場環境は一変しました。

営業活動におきましては、シャワーヘッドの需要の掘り起こしや新規取引先の開拓など販路拡大に取り組み、精製水や水道水などから除菌・消臭ができる携帯型オゾン水生成器「ポリーナ オースリーミスト」につきましても、新たな販路拡大に努めてまいりましたが、シャワーヘッドの販売減を補うに至らず、厳しい経営状況となりました。

以上の結果、売上高は7億10百万円（同53.9%減。セグメント間の内部取引高を含む）、セグメント利益は1億円（同87.3%減）となりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの経営成績につきましては、売上高は64億43百万円（同19.2%減）、営業利益は2億40百万円（同79.2%減）、経常利益は2億63百万円（同77.5%減）となりました。親会社株主に帰属する四半期純損失は、6月に実施しました希望退職者の募集にともなう特別退職金7億92百万円を特別損失に計上したことから、5億80百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益8億86百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、現金及び預金の減少15億55百万円等により、前連結会計年度末に比べ16億12百万円減少し、205億33百万円となりました。

負債は、未払法人税等の減少3億4百万円、賞与引当金の減少2億51百万円等により、前連結会計年度末に比べ8億71百万円減少し、24億59百万円となりました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純損失5億80百万円の計上、剰余金の配当1億26百万円等により、前連結会計年度末に比べ7億40百万円減少し、180億73百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は88.0%（前連結会計年度末は85.0%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ15億55百万円減少し、116億80百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、10億44百万円の支出（前年同四半期は20億50百万円の収入）となりました。主な要因は、税金等調整前四半期純損失5億29百万円、減価償却費及びその他の償却費2億49百万円、賞与引当金の減少2億54百万円、未払消費税等の減少2億42百万円、法人税等の支払額3億3百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、3億52百万円の支出（同3億15百万円の支出）となりました。主な要因は、無形固定資産の取得による支出1億79百万円、有形固定資産の取得による支出1億76百万円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、1億58百万円の支出（同1億91百万円の支出）となりました。主な要因は、配当金の支払額1億26百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年10月28日に公表しました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,249	11,694
受取手形	15	9
売掛金	242	176
商品及び製品	3,075	3,098
仕掛品	7	12
原材料及び貯蔵品	88	93
その他	214	229
貸倒引当金	△1	△0
流動資産合計	16,892	15,314
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	972	936
機械装置及び運搬具（純額）	125	232
工具、器具及び備品（純額）	141	123
土地	947	947
リース資産（純額）	77	68
有形固定資産合計	2,264	2,308
無形固定資産		
のれん	50	43
その他	1,093	1,167
無形固定資産合計	1,144	1,211
投資その他の資産		
投資有価証券	404	368
繰延税金資産	35	9
退職給付に係る資産	1,023	1,051
その他	384	272
貸倒引当金	△4	△3
投資その他の資産合計	1,843	1,698
固定資産合計	5,252	5,218
資産合計	22,145	20,533

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	549	663
1年内返済予定の長期借入金	7	7
リース債務	59	56
未払金	798	685
未払法人税等	342	37
契約負債	104	135
賞与引当金	260	9
その他	351	52
流動負債合計	2,472	1,647
固定負債		
長期借入金	25	22
リース債務	19	13
長期未払金	153	133
契約負債	193	194
繰延税金負債	313	321
退職給付に係る負債	153	126
固定負債合計	858	812
負債合計	3,331	2,459
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,600	3,600
資本剰余金	4,897	4,897
利益剰余金	10,416	9,709
自己株式	△131	△131
株主資本合計	18,782	18,075
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△26	△57
退職給付に係る調整累計額	58	54
その他の包括利益累計額合計	31	△2
純資産合計	18,814	18,073
負債純資産合計	22,145	20,533

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	7,969	6,443
売上原価	3,369	3,047
売上総利益	4,600	3,395
販売費及び一般管理費	3,442	3,154
営業利益	1,157	240
営業外収益		
受取利息	3	0
貸倒引当金戻入額	0	0
雑収入	7	23
営業外収益合計	11	23
営業外費用		
支払利息	0	0
雑損失	0	0
営業外費用合計	1	1
経常利益	1,167	263
特別利益		
固定資産売却益	7	—
特別利益合計	7	—
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別退職金	—	792
特別損失合計	0	792
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,175	△529
法人税、住民税及び事業税	321	15
法人税等調整額	△32	34
法人税等合計	288	50
四半期純利益又は四半期純損失(△)	886	△580
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	886	△580

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	886	△580
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△0	△30
退職給付に係る調整額	1	△3
その他の包括利益合計	1	△34
四半期包括利益	888	△614
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	888	△614
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,175	△529
減価償却費及びその他の償却費	293	249
受取利息及び受取配当金	△3	△0
固定資産除却損	0	0
特別退職金	—	792
売上債権の増減額(△は増加)	△33	71
棚卸資産の増減額(△は増加)	38	△32
仕入債務の増減額(△は減少)	116	113
賞与引当金の増減額(△は減少)	38	△254
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△16	△28
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	0	△29
未払金の増減額(△は減少)	121	△105
前受金の増減額(△は減少)	11	—
契約負債の増減額(△は減少)	—	32
未払消費税等の増減額(△は減少)	139	△242
その他	249	△0
小計	2,130	37
利息及び配当金の受取額	3	0
特別退職金の支払額	—	△777
法人税等の支払額	△83	△303
その他	△0	△0
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,050	△1,044
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△0	△0
有形固定資産の取得による支出	△60	△176
有形固定資産の売却による収入	15	—
無形固定資産の取得による支出	△180	△179
長期前払費用の取得による支出	△91	△3
その他	1	7
投資活動によるキャッシュ・フロー	△315	△352
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△3	△2
配当金の支払額	△158	△126
リース債務の返済による支出	△29	△29
その他	△0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△191	△158
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,543	△1,555
現金及び現金同等物の期首残高	11,095	13,235
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,638	11,680

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	レディース インナー等 販売事業	ウルトラファ インパブル技 術製品等製造 販売事業	計			
売上高						
衣料品類	4,242	—	4,242	4,242	—	4,242
化粧品類	1,108	—	1,108	1,108	—	1,108
健康食品類	475	—	475	475	—	475
その他	849	1,292	2,142	2,142	—	2,142
顧客との契約から生じる収益	6,676	1,292	7,969	7,969	—	7,969
その他の利益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	6,676	1,292	7,969	7,969	—	7,969
セグメント間の内部売上高又 は振替高	—	249	249	249	△249	—
計	6,676	1,542	8,219	8,219	△249	7,969
セグメント利益	400	791	1,192	1,192	△34	1,157

(注) 1 セグメント利益の調整額△34百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△37百万円、セグメント間取引消去3百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	レディース インナー等 販売事業	ウルトラファ インパブル技 術製品等製造 販売事業	計			
売上高						
衣料品類	4,044	—	4,044	4,044	—	4,044
化粧品類	1,024	—	1,024	1,024	—	1,024
健康食品類	454	—	454	454	—	454
その他	241	677	918	918	—	918
顧客との契約から生じる収益	5,765	677	6,443	6,443	—	6,443
その他の利益	—	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	5,765	677	6,443	6,443	—	6,443
セグメント間の内部売上高又 は振替高	—	33	33	33	△33	—
計	5,765	710	6,476	6,476	△33	6,443
セグメント利益	182	100	282	282	△41	240

(注) 1 セグメント利益の調整額△41百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△42百万円、セグメント間取引消去0百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。